

直島キッズスタディプロジェクト

代表者 守谷 泰（経済学部地域社会システム学科3年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業の目的は、直島の子どもたちと交流イベントを開くことで、学生と子どもたち、地域の人たちとのつながりの機会を作り出すことです。さらに地域に根ざした活動への発展や新たな活動のきっかけとしたいと考えています。

2. 実施期間（実施日）

平成24年8月1日 から 平成25年3月10日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、これまで直島地域活性化プロジェクトで毎年3月に行われている直島の子ども達を対象とした交流イベントを、地域の参加者及び参加者の父兄からの希望を踏まえて年3回開催しました。これは学生と地元の皆さんとの交流の機会を増やし、更に深めることを目標としています。

第1回「ポテト記念日～このイモがいいねと君が言ったから～」(11月11日開催)では食育ワークショップを行いました。これは、私たちが運営するカフェにある畑で収穫されたサツマイモを使ったもので、いも判子やいも蒸しパンを子ども達と作るという内容でした。



第2回（1月20日開催）に開催したエコをテーマとしたワークショップでは、染織作家の北野静樹氏をお呼びし、子どもたちとエコバックに絵付けを行ったり、学生が考えた環境に関するクイズを行ったりすることで、環境というものにより関心を持ってもらうイベントを開きました。このイベントは第1回開催イベントで子どもたちに行ったアンケート結果にあった「学生



と絵をかきたい」と言った声を参考にしたもので、実際にエコバックの絵付けでは学生と子どもがペアになって一緒にエコバックに絵付けを行いました。また、申請時は第二回イベントを中学生対象としていましたが、当初の予定よりイベント開催時期が1月にずれ込んでしまったことや、地元の方から小学校で環境についての授業に力を入れている点を生かしたイベントを開いてみてはどうかという提案から小学生対象のイベントに変更しました。その結果、参加者は予定より半分ほど少ない大人子ども合わせて10人程度でありましたが、子ども達とより親密に交流を深めることができ、父兄の方からも好評のイベントにすることができました。さらに、このイベント終了時に行ったアンケートでは「将来今日一緒にイベントに参加した大学生の人になりたい」や「一緒に絵をかいて楽しかった」といった感想が含まれていました。また、企画段階でどのような危険要因があるかを考慮したことで、学生自身も子供を預かることへの意識や危険要因を排除するといったメンバー間イベントに対する意識を高めることができました。イベント企画時の予想では子どもたちはすぐに飽きてしまうのではないかという不安がありました。そこで今回大学生とペアになってワークショップを行ったり、クイズも出題内容を短期的に変更するなどの工夫を行ったりしました。また講師の北野氏のご指導が非常に良いものであったため、結果子どもたちが最後まで飽きることなくイベントを行うことができました。

さらに、第2回イベント終了後アンケートを行った結果、次回第3回イベント時に大学生としたいものとして、現在直島の子どもたちの中で流行しているドッジビーというスポーツを行うことが挙がりました。さらに食育活動として、旬の野菜を使った餃子作りを計画しています。このドッジビーに加えて、このイベントは3月10日開催予定で、現段階では参加者20名程度で地元団体うい・らぶ・なおしまと協力して開催に向けて計画中です。このプロジェクト事業により、年1回しか顔を合わせる事のなかった直島の子どもたちとより交流を深めることができ、私たちが直島で運営しているカフェにも遊びに来てくれるようになりました。地域の大人の方とも交流の機会が増え、これからの直島での自分たちの活動に広がりをもたせることのできるつながりを得ることができたと考えます。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域の方々との連携を強くすることができました。イベント開催を計画するにあたって私たちは、直島の住民団体うい・らぶ・なおしまの定例ミーティングにおいて、計画案を提示し意見を求めたり、協力を求めたりしました。私たちがイベントを開催するにあたって地元住民の皆さんのご協力は不可欠なものです。うい・らぶ・なおしまをはじめ、直島小学校教員の方々、子どもたちの父兄の方々など多くの方からの協力を得て開催することで、私たちが直島で活動する意義を再認識できました。また、地域の方々に対し、直島の次世代を担う子どもたちを対象にしたイベントを開催することによって、学生が直島で活動する更なる理解と協力を得ることができたと思います。

また、小学校からは直島で活動する大学生として朝の朝礼でお話しさせていただく場や、授業でお話しさせていただく場もいただくことができました。このように地域でイベントを開催することによってイベント以外で学生が協力できることがあるということに嬉しさを感じました。

地域貢献・地域で私たちができることの多さを実感しました。

さらに、頼りにしてくださる地域の方が増えたことが好影響となり、より活動を深めるきっかけを作ることができました。私たちがこのようにプロジェクト事業を通して活動する



ことで地域に刺激を与えることができたのではないかと考えます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクト事業を行ったことにより、プロジェクト運営、特にイベントの企画、運営、また地域のみなさんとの連絡の取り方など、多岐にわたるノウハウを深めることができました。今まで年に1回という開催回数でしたが、8月から3月の直島キッズスタディプロジェクト実施期間中の実質3か月という短期間にイベントを実施するという一方で、より計画的な運営のプロセスが身につく、これらの経験は今後のイベント開催に向けた取り組みに大きく生かしていけるものだと考えます。また、子どもを対象としたイベントということで、どのような危険があるか、どのようなことをしたら喜んでもらえるかといった点を考える際に、地域住民の方から多くのアドバイスをいただき、そこで地域の方と交流を深められました。そこから直島での他の活動や行事に呼んでいただき、さらに地域に根差した活動を行うことができました。このことによって学生一人一人が直島で活動する意味を再認識し、より地域の方とのつながりを大切にしたいと思うことができました。そして、他大学との合同プロジェクト報告会等に参加した際にこのプロジェクト事業について、他大学に対して一つの地域交流モデルとなるような事例として活動を発信することもできました。私たちのイベントは「手作り」というものを重視しており、イベント名や横断幕、チラシ、運営に関するものはすべて学生で手作りしています。先ほども述べたように、イベント開催時は多くの地域の方の協力が欠かせません。地域の方とイベント開催まで連絡を密に取り合います。その際の地域の方との連絡対応や講師との連絡のやりとりなど、作業に関してもそれぞれ担当を決め、分担することで自分の仕事に対する責任感や使命感をメンバー一人一人が感じられることができました。このことを通じて私たち自身の人間力の成長となる一つのきっかけになったのではないかと考えます。その点に関して自分たちが成長できたのは大きな収穫でした。



イベントミーティング風景（左） イベント時に使用する手作りポスター作製、クイズの打ち合わせ様子（右）

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、当初予定のイベント開催時期がずれてしまい、予定より子どもたちの参加数が少なくなってしまったことです。また、中学生とのイベントも計画していましたが、小学校からの要請があったことや、私たち自身が中学生対象のイベントの企画内容を詰めることができなかつたために申請内容と変更してイベントを開催しました。

今後は、これらプロジェクト事業での経験や子どもたちからの声をもとに、さらに地域に根ざしたイベントを開催できるよう努力したいと思います。そして、直島キッズスタディプロジェクトということで、「学び×遊び」を念頭にイベントを開催してきましたが、これからは「親子で学び×遊び」といったものができるイベントを開催し、より多くの地域の方との交流を図りたいと思いました。また、第3回イベントが3月10日に開催されるまで今は作業段階です。第1回、第2回の反省点を含めて念入りにミーティングを行い、イベント全体班、調理班、スポーツ班に作業を分担して活動をしています。地域の方との連絡もこまめに行い、意思疎通を図りながらイベント運営をしています。

今回のプロジェクト事業を通して、私たちの団体でのイベント運営プロセスを確立することができました。期間内に3回のイベントの実施ということで開催日程を仮定し、そこからいつまでに企画を立ち上げ運営するかという流れをプロジェクト内に作ることができたことは今後のイベント運営に役立つノウハウとなるとと思います。また、直島における活動の幅を広げることができ、より地域に根ざした活動を行えることもできました。これからはプロジェクト事業での反省をもとに、より直島の地域が必要としていることを行っていくことが欠かせないと思いました。

7. 実施メンバー

代表者	守谷 泰（経済学部3年）			
構成員	伊藤 友希（経済学部2年）	浮田 香奈（経済学部2年）		
	大西 愛（経済学部2年）	斉藤 真帆（教育学部2年）		
	杉山 鈴美（経済学部2年）	西内 千尋（経済学部2年）		
	光実 麻衣（経済学部2年）	森田 奈津美（経済学部2年）		
	森谷 成美（経済学部2年）	山田 瑞穂（経済学部1年）		
	岡野 恭子（経済学部1年）	小椋 安希子（経済学部1年）		
	武田 一徹（経済学部1年）	中井 翔太郎（経済学部1年）		
	中川 有彩（経済学部1年）	三宅 佑佳（経済学部1年）		